

# SUSE Linux Enterprise Server 11 + NetVault 8.51 での日本語表示の不具合について

アイランドセンター中嶋事務所

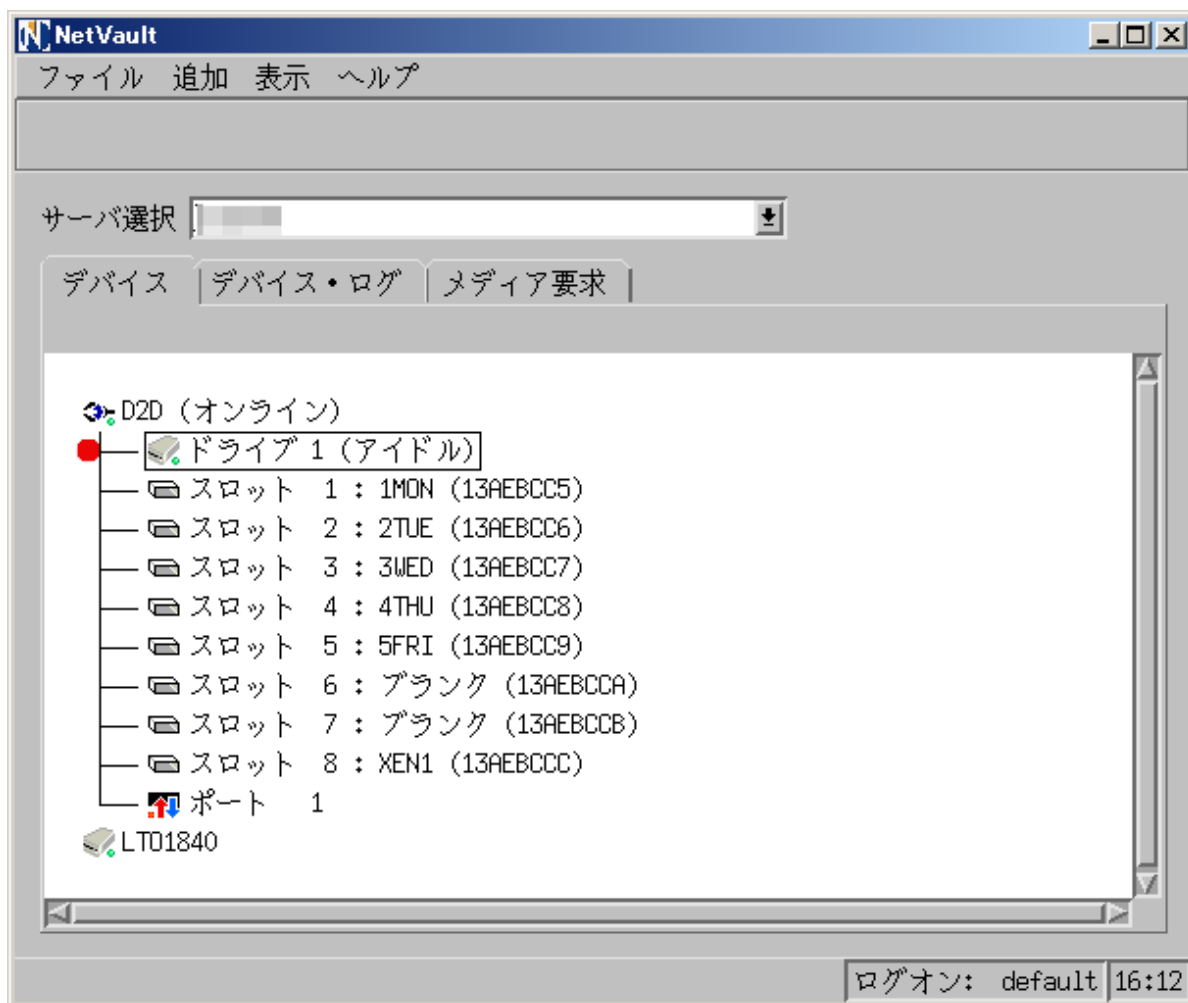
2010/8/25

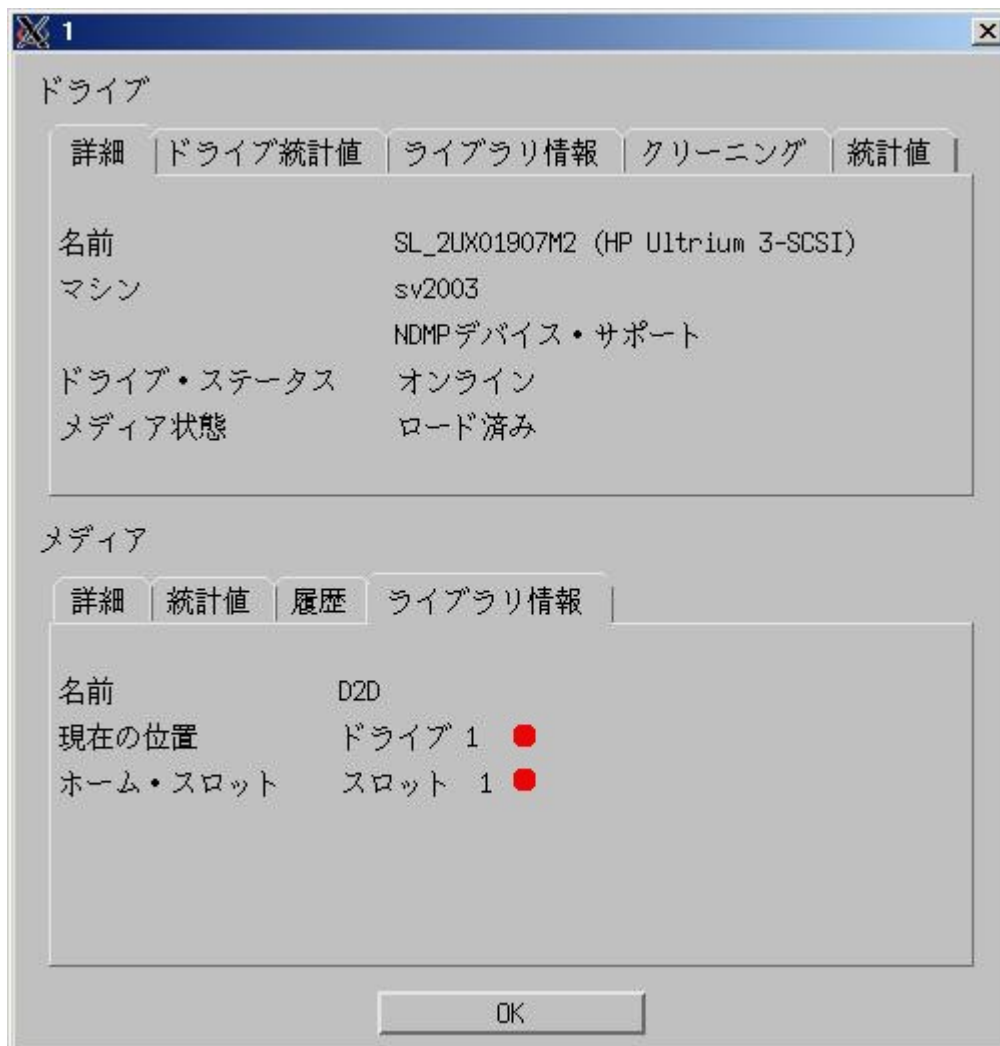
この文書では、SUSE Linux Enterprise Server 11(SLES11) と NetVault 8.51(NVBU Linux x86-64) の組み合わせで発生する不具合と、制限事項、回避策についてご説明します。

## イジェクトの不具合

`/usr/netvault/util/nvdevice -eject -drive <drive-name>` が機能しない。

JapaneseEUC を選択してインストールした場合、HP D2D 2000i 仮想オートローダーの内部デバイスが「ドライブ 1」となり、`nvdevice -eject -drive "DRIVE 1"` ではイジェクトされない。





-対策-

インストール言語を JapaneseEUC でインストールした際の致命的な不具合です。

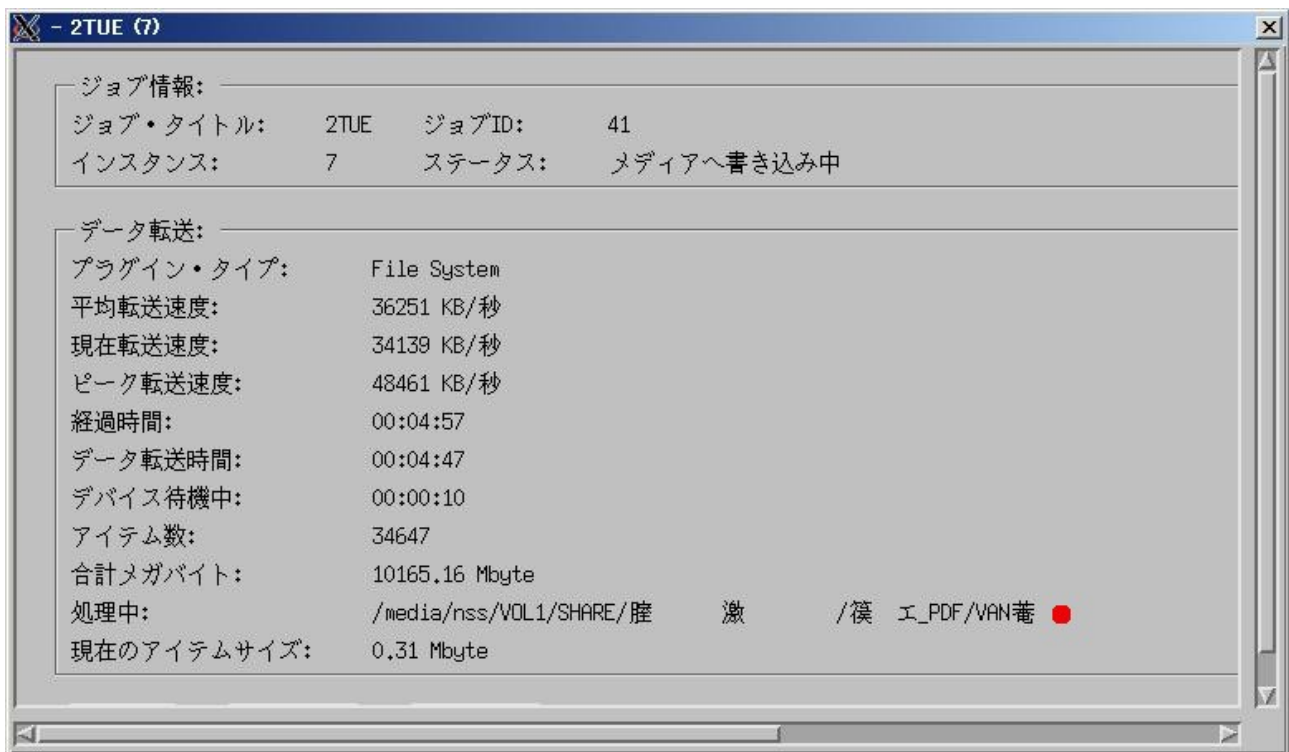
ライブラリと内蔵デバイスの設定を English モードで作成して回避します。

ただし、デバイスを作り直すため、既存のジョブセットが動作しない場合があるため、ジョブセットはもう一度確認の上で必要に応じて Target の修正が必要な場合があります。

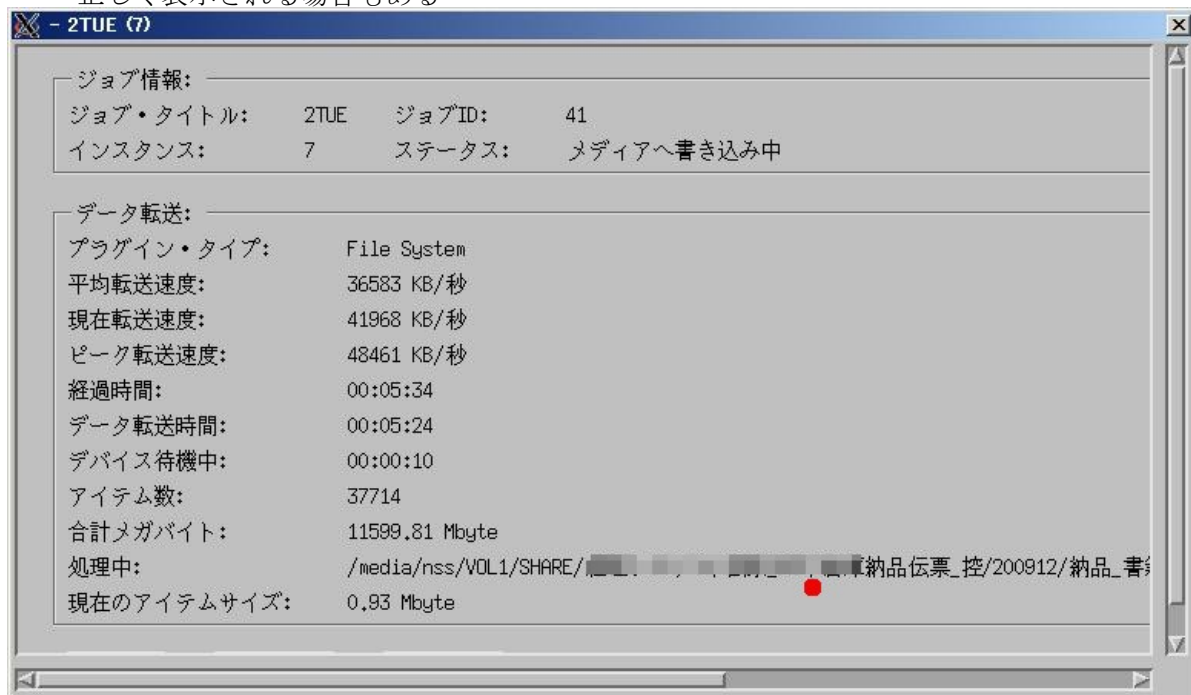


## ジョブ監視

実行中の「ジョブ監視」スクリーンで文字化けが発生する場合がまれにある



正しく表示される場合もある

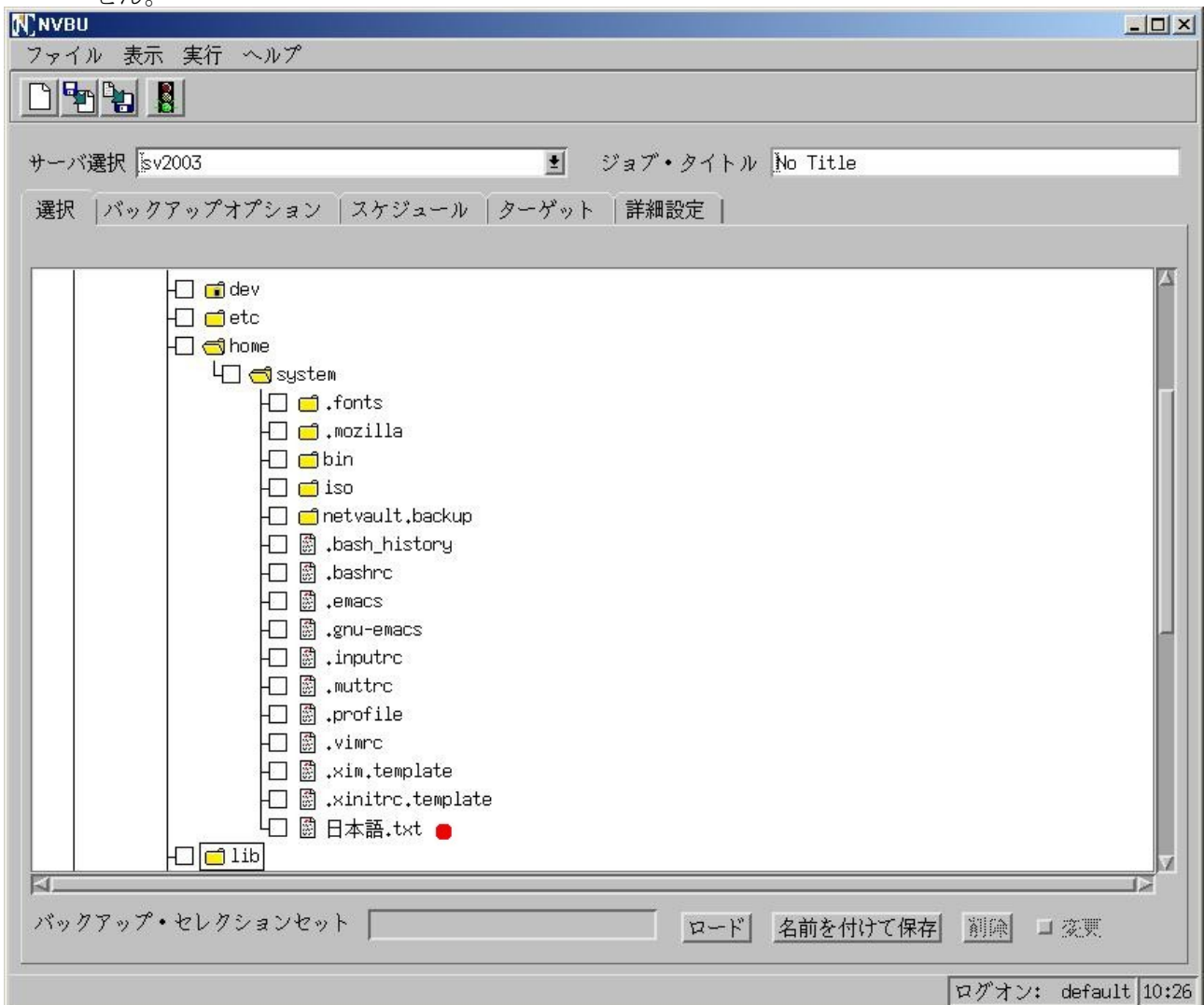


-影響-

表示の問題で、実際のバックアップリストアには影響がありません。

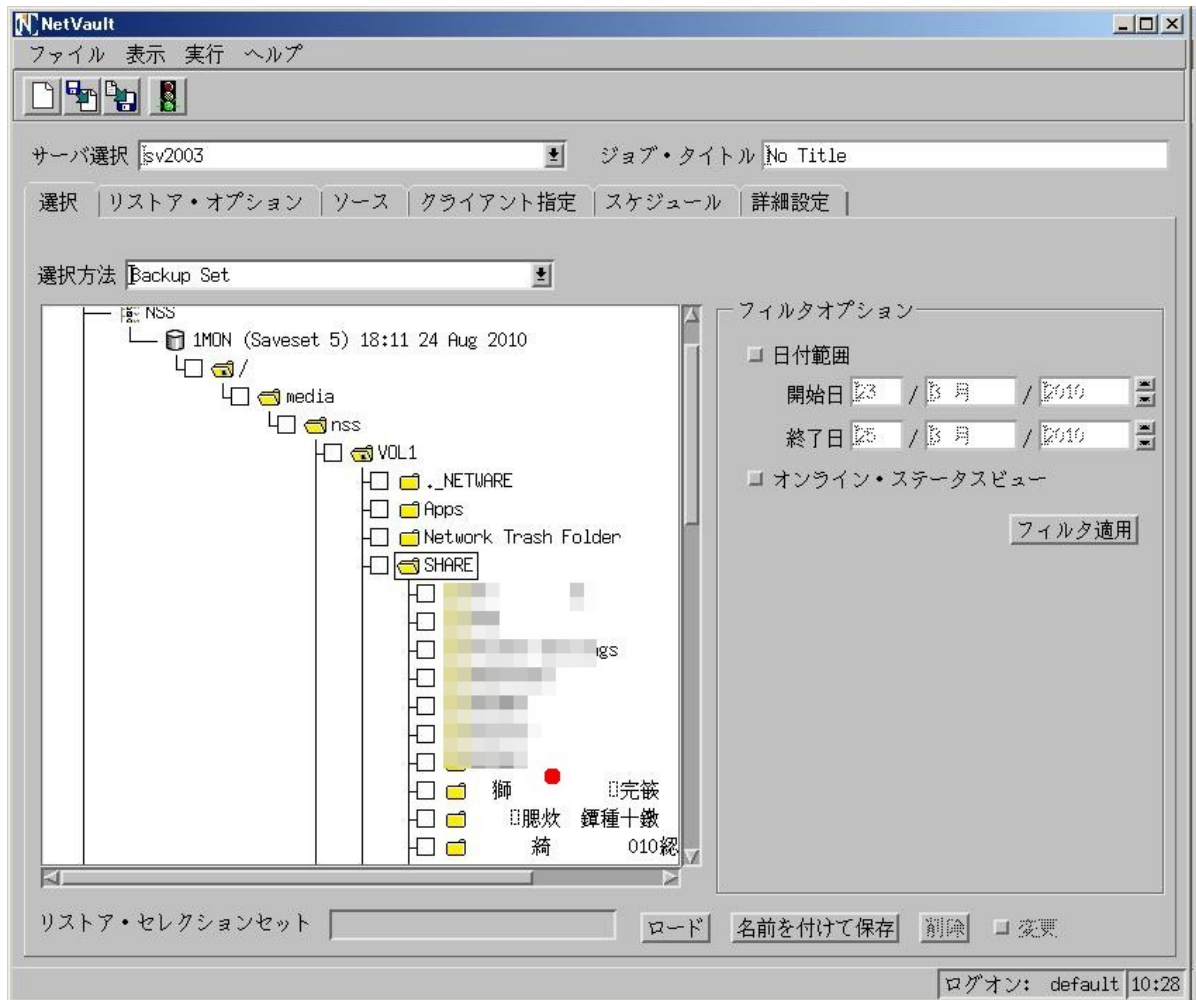


なお、この問題は /home/user など samba でアクセスして作成したフォルダには影響がありません。



## リストア時の問題

リストア時に日本語フォルダが文字化けして表示される。リストア＞選択から /media/nss/VOLUME/日本語フォルダ、が文字化けします。これはバックアップターゲットの指定と同じ問題です。



### -対策-

表示上の致命的な障害です。

フォルダを開いて英数字のファイル名を探して目安とするか、もっと上位のフォルダ単位でリストアして回避します。直接リストアしないで、右ボタンから”パスの変更”を設定して “/media/nss/VOLUMEwithRichSpace/restore-directory” を指定して、必ず「OK」ボタンを押してください。「OK」ボタンはダイアログに隠れて見えませんのでスクロールする必要があります。

### -影響-

バックアップデータのファイル名、属性、その他動作には影響ありません。表示の問題だけです。

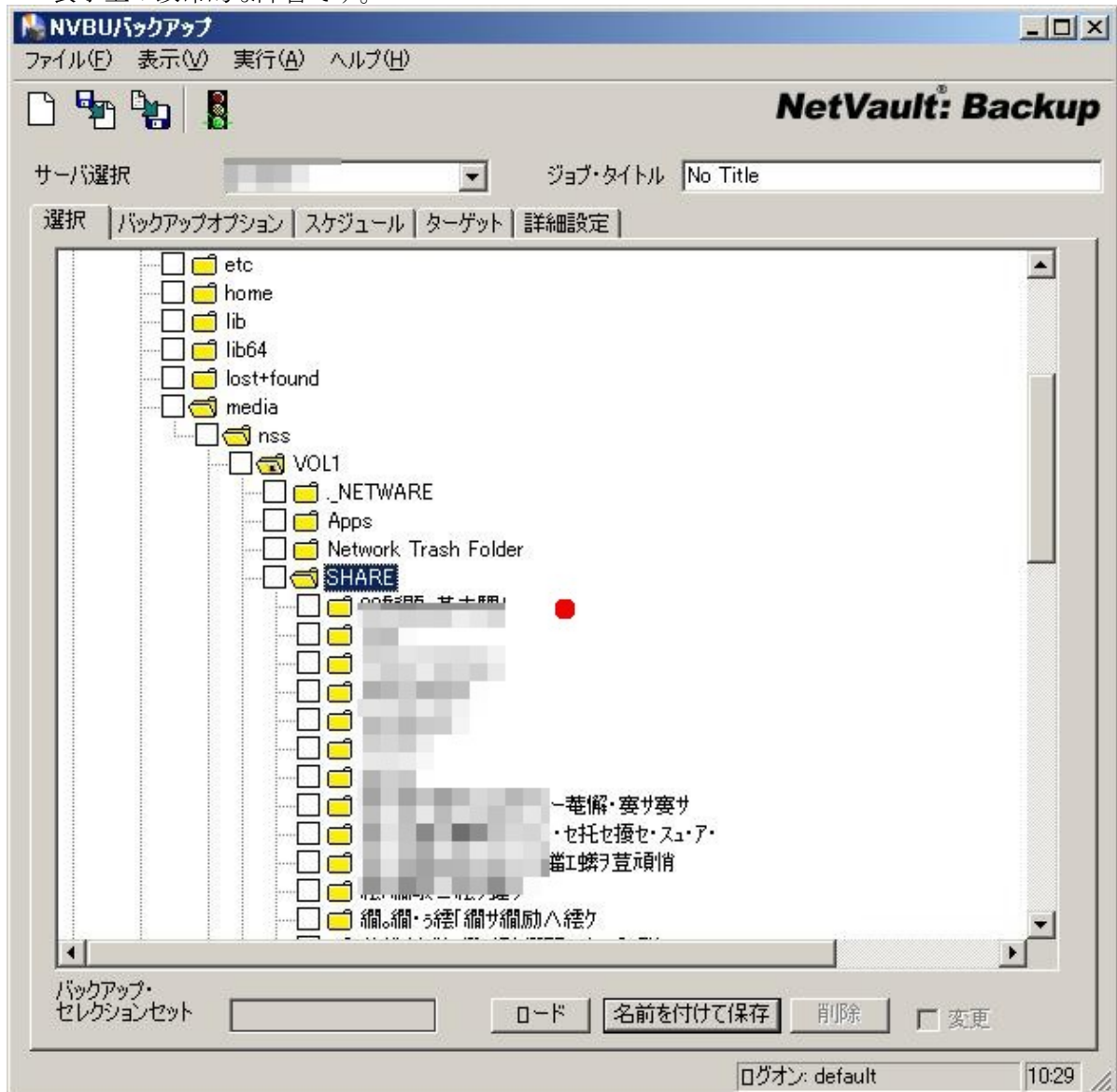


## Windows 版からドメイン接続した場合の問題

Windows 版をインストールして、「管理メニュー」から、バックアップサーバーを指定して Windows から操作することができますが、いくつか日本語表記に関する問題があります。

### バックアップソースの日本語文字化け

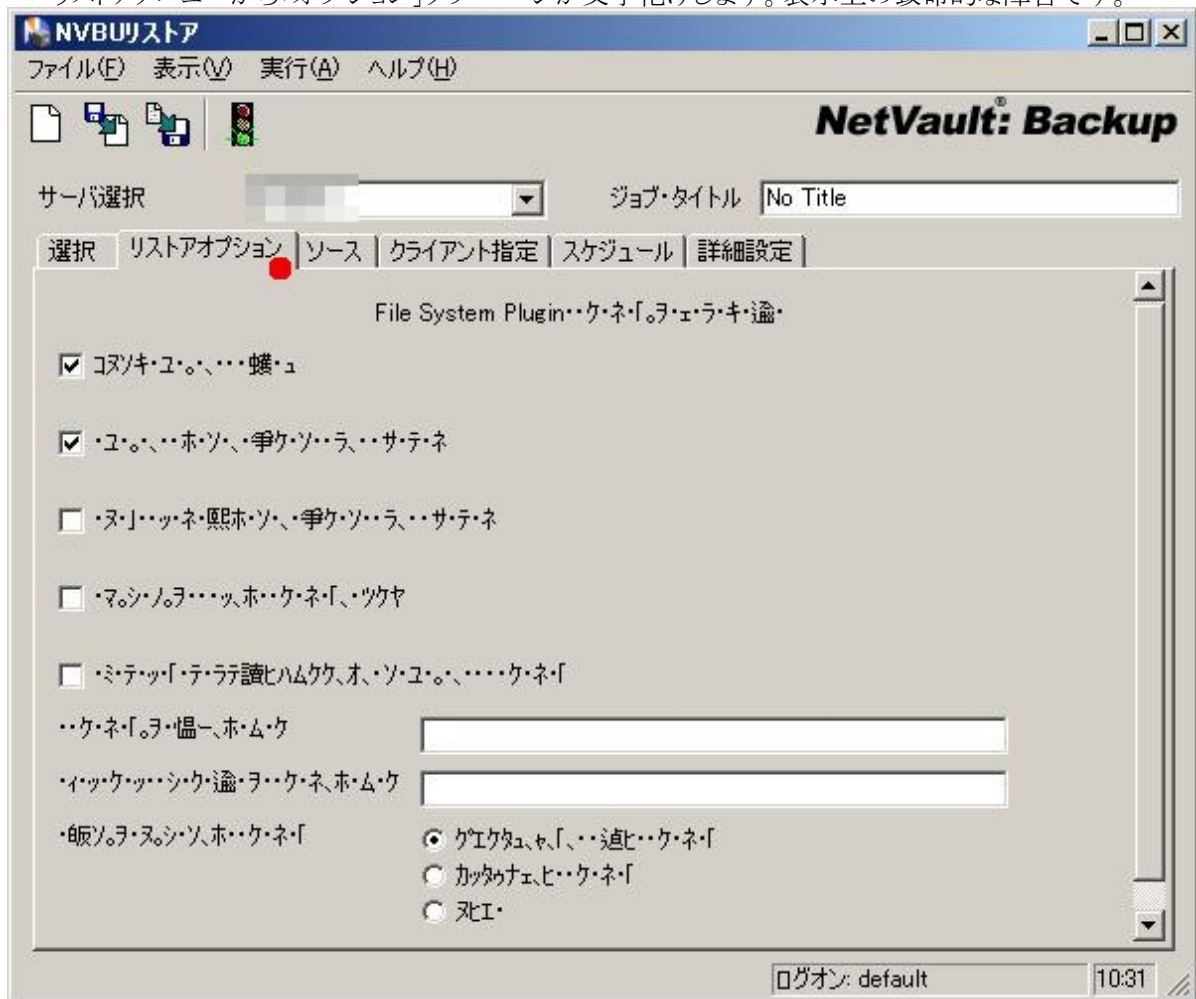
表示上の致命的な障害です。



Linux 版とはまた異なる文字化けが発生します。リストアも同様に文字化けします。

## リストアオプションタブの文字化け

リストアメニューから「オプション」タブページが文字化けします。表示上の致命的な障害です。



### -対策-

Windows 版からの利用は可能ですが、バックアップジョブの作成、リストアなどには利用されないことをお勧めします。ただし、ログは日本語で表示できるため、ログやジョブの実行結果の参照などには問題はありません。

## ジョブステータスの文字化け

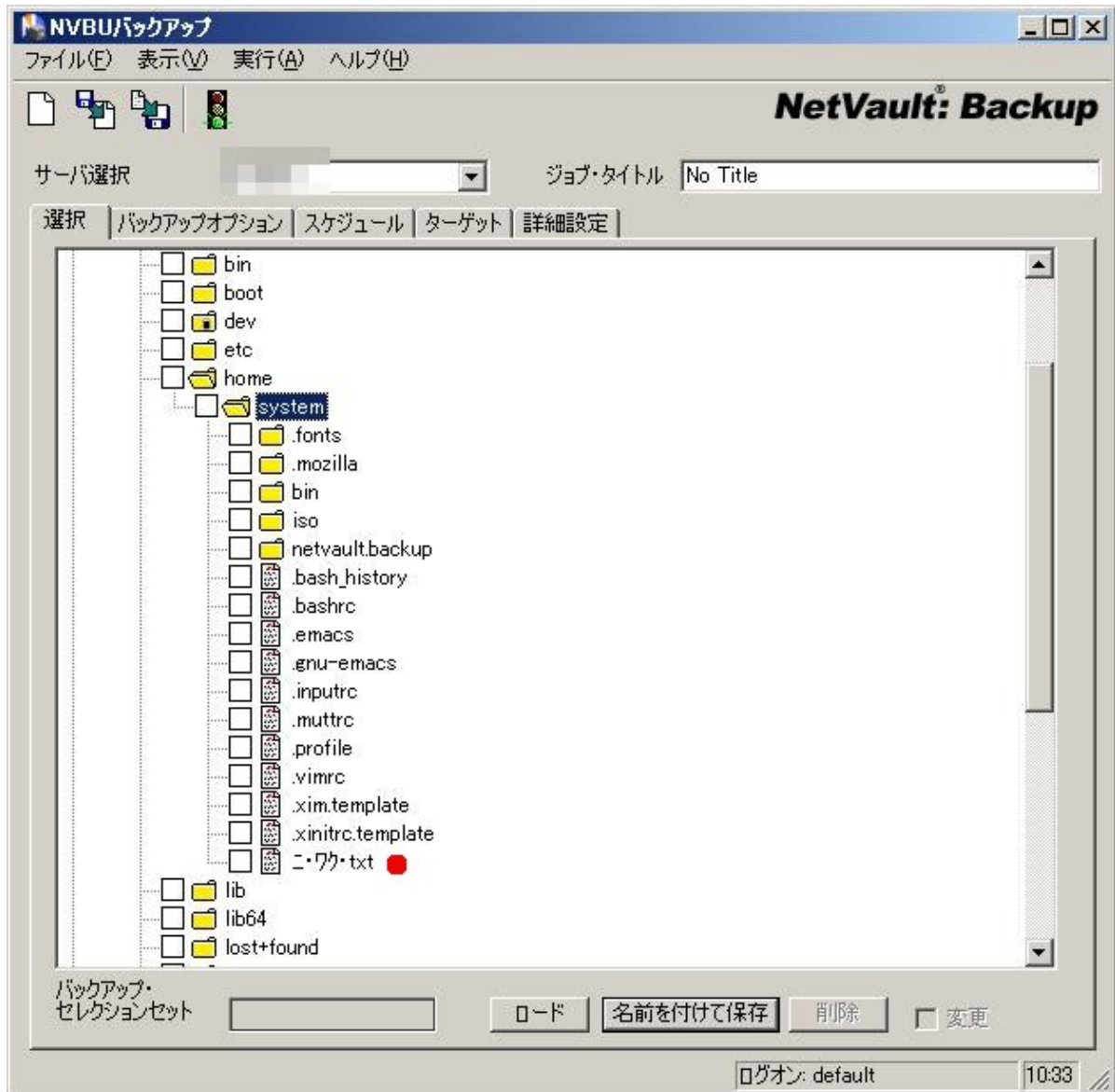
表示上の致命的な障害です。



実行中のジョブステータスを表示する画面が文字化けします。進捗状況を Windows で確認したい場合の制限事項です。この現象は Linux 版では発生しません。動作に影響はありません。

## samba の日本語ファイルの文字化け

Windows 版サーバから Linux 版のサーバに接続して samba で保存したファイルが文字化けして表示されます。



これは Windows > SLES11 サーバに接続した場合に発生します。SLES11 上から nvgui を実行した場合は正しく表示されます。Linux 版でご利用ください。

## まとめ

- NVBU は”日本語 euc”を利用します。これはUNIXでの日本語ローカル規格です。SLES11 では 多言語向けの“UTF-8”国際規格を使っています。Windows では ShiftJIS を使います。NetVault が UNIX 用アプリケーションとして開発されたため、他のプラットフォーム(Linux, Windows)版ではこのような問題が発生します。
- 日本語のファイル名、フォルダ名をバックアップ・リストアを行う際に、困難な場合があります。上位のディレクトリからバックアップ・リストアして回避してください。
- これらのトラブルは GUI 表示の問題で、データそのもののファイル名、フォルダ名には影響がありません。
- Windows 版からドメイン管理でバックアップサーバに接続できますが、ステータスの確認やログの確認程度の作業に利用し、バックアップ、リストアジョブの作成、実行は避けてください。
- Windows 版から接続したバックアップサーバの画面の一部にファイル名以外の致命的な表示の不具合があります。Linux 版でご利用ください。
- ジョブのログはおおむね正常に日本語訳されています。内容そのものは英語版に切り替えても問題なく「英語」で表示されます。ログファイルは Logs > Option > Dump to Logfile メニューでファイルにすることができます。text と binary で切り替えできるため、トラブル解決のためログを入手する場合は両方のフォーマットでダンプすることをお勧めします。特にテキストの場合は必ず英語でのテキストダンプを行ってください。日本語テキストのままダンプすると日本語 euc で保存され、ブラウザ以外のアプリケーションでは文字化けします。
- 日本語・英語の切り替えは # nvconfigurator & > General(一般設定) > スクロールダウンして Language Selection から切り替えることができます。
- 日本語版では nss ボリューム上のファイルは文字化けしますが、英語で起動した場合は空白で表示されます。